



Data 2022-100

監督・脚本: ビョン・ソンヒョン
 出演: ソル・ギョング/イ・ソング
 ユン/ユ・ジェミョン/チ
 ヨ・ウジン/パク・イナン/
 イ・ヘヨン/キム・ソンオ/
 チョン・ベス/ソ・ウンス/
 ペ・ジョンオク/キム・ジョ
 ンス/ユン・ギョンホ

👁️👁️ みどころ

阪本順治監督の『KT』（02年）のテーマとされた金大中事件は、日本でもチョー有名。金大中の政治家としての足跡を見れば、韓国政治の過酷さと彼の数奇な運命がよくわかる。しかし、1960年代から彼の選挙参謀として影の存在であり続けた嚴昌録（オム・チャンノク）とは？

『青春の光と影』は名曲だが、「政治の光と影」は陰湿。そして、その権力闘争と権謀術策はいやらしい。しかし、誰かがそれをやらなければ・・・。

日本の“総理総裁モノ”はくだらないものが多いが、韓国の“大統領モノ”は名作が多く実に面白い。5年毎の政権交代が常態化している韓国で、今年5月に就任した保守の尹錫悦（ユン・ソギョル）大統領は日本との関係改善に意欲的だが、米韓軍事演習の拡大に北朝鮮はたちまち大反発！そんな難局の中で本作が公開された意義をしっかりと確認したい。

それにつけても、旧統一教会汚染（？）に右往左往しているだけの第2次岸田改造内閣のバカバカしさは・・・？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■韓国の“大統領モノ”に新たな名作が誕生！■□■

第2次世界大戦後の混乱と朝鮮戦争、そして軍事独裁政権との戦いを経て、民主主義国家になった韓国では、大統領選挙は最大のイベント。アメリカは、民主党と共和党、台湾は国民党と民進党の2大政党が政権交代を繰り返しているが、韓国でも保守系と革新系の2大政党が政権交代を繰り返している。

直近では、2022年5月に革新系の文在寅（ムン・ジェイン）から保守系の尹錫悦（ユン・ソギョル）への政権交代が実現した。韓国でそれが可能になったのは、長く続いた軍事独裁政権に、金大中（キム・デジュン）が長い間挑戦し続け、1998年から2003

年まで、はじめて彼の革新系政権を樹立した結果だ。台湾でも、1988年にはじめて実現した直接選挙による李登輝政権の誕生は大ハプニングで、その後の中国国民党 VS 民主進歩党との2大政党制実現の端緒になったが、韓国でも金大中政権の誕生は大ハプニング。しかして、そんな“大統領を作った男”とは？

日本では“総理総裁モノ”の名作は少ないが、韓国では“大統領モノ”の名作は多い。『KT』（02年）（『シネマ2』211頁）、『ユゴ 大統領有故』（06年）（『シネマ16』126頁）、『弁護人』（13年）（『シネマ39』75頁）等がその代表だが、ここに、その系列の新たな名作が誕生！

■表（金大中）は有名だが、裏（嚴昌録）は誰？■

1997年12月の大統領選挙で、与党候補に僅差で勝利し（40.3%VS38.7%）、1998年から2003年まで第15代大統領を務めた金大中は、『KT』のテーマとされた「金大中事件」の当事者として、さらにノーベル平和賞を受賞した韓国唯一の大統領としてチョー有名。地方の野党政治家から出発し、大統領にまで上り詰めた彼の不屈の精神力と闘争心は、韓国はもちろん世界でもトップクラスだ。他方、彼の選挙の参謀として実力を発揮した男が、“大統領を作った男”、嚴昌録（オム・チャンノク）だが、この男のことを知ってる日本人はまずいないだろう。

本作は実話に基づく（架空の）映画だから、政党名はすべて架空のものにされている。また、2人の主人公キム・ウンボム（ソル・ギョング）とソ・チャンデ（イ・ソンギョン）も架空の名前とされているが、そのモデルが金大中と嚴昌録であることは、最初からの大前提だ。嚴昌録については、東亜日報に連載された「南山の部長たち」の中で詳細に描かれているので、本作をしっかりと理解したいなら、同記事を読むことが不可欠だ。さあ、本作が描く“大統領作った男”ソ・チャンデとは、どんな男？

ちなみに『KCIA 南山の部長たち』（20年）（『シネマ48』226頁）は、18年間もの長期政権に君臨してきた朴正熙大統領の下で、KCIA（韓国中央情報局）の部長として、ナンバー2の権限を最大限に行使してきたキム・ギョピョン部長の波乱の人生を描いたものだった。そこでは、織田信長 VS 明智光秀の関係にも似たような（?）、2人の緊張関係がメチャ面白かった。しかし、本作が描く“大統領を作った男”は、同作には全く登場してこないで、誤解のないように。

■『青春の光と影』は心地良い名曲！政治の光と影は？■

1967年に発売された『青春の光と影』は、ジュディ・コリンズが歌って大ヒットした曲。その歌詞もメロディーも心地よいもので、まさに青春は光と影の両者から成り立っていると感じさせる名曲だった。

他方、政治は権力闘争だから、昔は殺すか殺されるかを伴うものだった。民主主義に根差した投票制度の下では、さすがにそれはなくなったが、騙しや脅しを含む権謀術策は当然のこと。したがって、「政治の光と影」は「青春の光と影」ほど心地良くはないが、選挙

参謀はそれを見据えて指導するのが商売だ。

しかして、本作導入部では、政治の表に立つ、真面目一辺倒で情熱一辺倒(?)のキム・ウンボムの姿と、選挙参謀として裏方でそれを支えるソ・チャンデの姿が描かれる。キム・ウンボムが地元の木浦(モッポ)で実施された国会議員の補欠選挙で初当選したのは1961年。キム・ウンボムはさらに1963年の国会議員選挙でも対立候補を破って当選したが、その選挙のウラで活躍したのが、「1票を得るより相手の10票を減らす」戦略を提案したソ・チャンデだった。そこでは、対立候補の隠し子キャンペーンを利用したネガティブキャンペーンが問題視されて、彼は事実上の謹慎状態に。続く1967年の国会議員選挙では、キム・ウンボムの台頭を警戒した大統領陣営は、与党と中央上層部の総力を挙げてキム・ウンボム潰しに乗り出した。そのため、キム・ウンボムは再びソ・チャンデを呼び戻し、実質的な選挙運動のリーダーの座に据えたが、さて、その戦いの展開と結果は？本作の前半から中盤にかけては、そんな選挙戦の姿をじっくり楽しみたい。

他方、躍進著しいキム・ウンボムの裏でソ・チャンデが暗躍していることに気づいたパク・キス大統領(キム・ジョンス)(ちなみにそのモデルは、朴正熙)は、大統領の行動隊長であるキム部長(ユン・ギョンホ)を使って、大金を餌に引き抜きを図ったが、その首尾は？ソ・チャンデのような男なら大金の魅力に目がくらんでもおかしくないが、さて歴史の真実は？

■□■大統領選挙前の、党内での公認争いは？こりゃ面白い！■□■

来たる8月27日に投開票される日本維新の会の代表選挙は、投開票前から馬場伸幸氏の当選が確実！そこで新たに代表に選出される馬場氏は国会議員だから、議院内閣制の下で総理大臣になる資格はあるが、そこまで行くのは極めて難しい。それに対して、韓国の大統領制は国民による直接選挙だから、理論的には誰でも、現実的には野党の統一候補に選出されれば誰でも大統領になることができる。

前述のように、1961年に木浦の国会議員補欠選挙ではじめて勝利し、以降1963年と1967年にも与党候補を破って国会議員を続けてきたキム・ウンボムが、党内でどの程度汗をかき、実力を発揮してきたのかは本作では描かれない。しかし、1971年の大統領選挙に向けて実施された1970年9月の党大会で、新民党総裁のカン・インサン(パク・イナン)、新民党の有力議員イ・ハンサン(イ・ヘヨン)(ちなみにこのモデルは金泳三)の2人と野党統一候補の座を争うほどに力をつけていたから立派なものだ。

総理総裁選挙をめぐる権謀術策については、日本の自民党内のそれをいつも目にしているが、本作中盤では、この三氏による野党統一候補選定を巡るドラマ(権謀術策)を楽しみたい。そこでもキム・ウンボムが重用した選挙参謀ソ・チャンデの能力(異才)が存分に発揮されるので、それに注目！

■□■勝つためなら何でも！？自宅爆破は事故？自作自演？■□■

1970年9月の党大会で大統領選挙の野党統一候補とされたキム・ウンボムは、19

71年の大統領選挙で韓国初の政権交代を目指して懸命の選挙戦を続けたが、現職大統領の壁は厚い。その間、キム・ウンボムから「表に出る準備はできているか？」と問われたソ・チャンデは、「遂に、影の存在であり続けた自分にも！」と張り切ったから、彼の選挙参謀としての権謀術策はいよいよ冴えわたることに。ところが、そんな選挙戦の真っ最中である1971年1月にキム・ウンボムの自宅で爆発事故が発生したから、さあ大変！これは事故？それとも事件？もし事件だったら、その犯人は？

去る7月8日に発生した安倍晋三元総理銃殺事件の犯人は、山上徹也容疑者と特定されたが、キム・ウンボムがアメリカ外遊中に起きたこの事故は、キム・ウンボムの暗殺を狙ったものでないことは明らかだ。すると、この“事件”の犯人は暴徒？それとも現職大統領側の人物？いやいや、これはひょっとして、ソ・チャンデの主導による自作自演かも・・・？1931年9月18日に起きた満州事変は大陸進出を狙う関東軍による自作自演だったことが歴史的に明らかにされているが、まさか、まさか・・・？でも、あの日、あの時刻、ソ・チャンデ一人だけが選挙事務所にいなかったことは明白だが・・・。

■□■お前が犯人？ソ・チャンデの回答は？あなたの判定は？■□■

何が本場で、何が嘘かの判定は難しい。警察の取り調べは権力をバックにしたものだからそれなりの信憑性があるが、今回の自宅の爆破事故については、「お前が犯人？」と聞くキム・ウンボムに対するソ・チャンデの回答一つで真偽がわかるはず。そう思っている私の目の前で、ソ・チャンデは「そうです！」と答えたから、アレレ・・・。

彼の答えに失望したキム・ウンボムはソ・チャンデとの絶縁を宣言したため、以降、ソ・チャンデの姿は完全にキム・ウンボム陣営から消えてしまったが、弁護士の私が気がかりなのは、「そうです！」と答えた時のソ・チャンデの目。「俺の目を見ろ、何にも言うな」は、サブちゃんこと北島三郎のヒット曲『兄弟仁義』の3番冒頭の歌詞だが、しっかりその目を見れば、彼が語っている言葉が本当か嘘かがわかるものだ。キム・ウンボムはソ・チャンデの言葉を真実と判定したが、私はむしろ正反対！さて、あなたの判定は？

それはともかく、選挙戦真っ只中の1971年3月における選挙参謀ソ・チャンデの解任は大事件。キム・ウンボム陣営の痛手は如何に？

■□■終盤の選挙戦に異変！ソ・チャンデの去就は？結果は？■□■

パク・キス大統領は、1969年10月に自らの三選出馬を可能にする憲法改正（悪？）を行った。そのため、1971年の大統領選挙は事実上そこからのスタートになった。そして、1970年9月の党大会で野党統一候補に選出されたキム・ウンボムの善戦は、その選挙戦の当初から際立っていた。すると、これはひょっとして政権交代が実現？そんな気運が韓国全土に盛り上がっていく中で起きたキム・ウンボムの自宅爆破事件とソ・チャンデ解任事件は大ショックだが、それでもキム・ウンボムは大善戦！

ところが、そこで突如与党側が仕掛けてきたのが、与党候補の地盤である慶尚道とキム・ウンボムの地盤である全羅道との“地域対立感情”を煽り立てるキャンペーンだ。選挙民

の数は慶尚道の方が圧倒的に多いから、この対立が定着すれば、キム・ウンボムは不利。しかし、なぜこの時期になって、与党陣営は突如そんなキャンペーンを仕掛けてきたの？それを陰で指揮しているのは一体誰？ひょっとして、あのソ・チャンデが与党側の陣営に・・・？しかして、投開票の結果は如何に？

■□■史実は？金大中大統領の誕生はいつ？その時厳昌録は？■□■

“史実を基にした物語”は面白い。韓国の朴正熙大統領は、1963年から1979年まで、5期16年間（第5代～第9代）大統領を務めたから、後に日本でもチョー有名になった金大中の大統領選挙勝利による韓国における政権交代は、それよりずっと後の1997年秋のことになる。つまり、本作ラストのクライマックスとなる1971年の大統領選挙で金大中候補は、約540万票 VS 約640万票で朴正熙大統領に敗れたわけだ。そして、その敗因の一つが、選挙終盤戦で与党側が仕掛けた地域対立感情を煽り立てるキャンペーンだが、その仕掛け人が厳昌録だった（？）、というのが本作最大のミソだ。

もし、キム・ウンボムの自宅爆破事件についてキム・ウンボムが最後までソ・チャンデを信じ、選挙参謀を解任していなければ・・・？そんな歴史上のイフは、「もし、クレオパトラの鼻がもう少し低かったら・・・」という、歴史上のイフと同じように無意味だが、コトの真偽はどうなの？それには、数年後、数十年後の厳昌録の告白が不可欠だが、残念ながら彼は、1988年1月3日に他界し、生前再び金大中と会うことはなかつたらしい。本作については、ハッキリとした史実と、今なお真偽不明の事実をかみしめながら、“大統領モノ”のダイナミックな面白さをしっかり楽しみたい。

2022（令和4）年8月26日記